

2025（令和7）年度 全国学力・学習状況調査 結果の分析から

子どもたちに育てたい「学びの姿」について

真鶴町教育委員会

真鶴町では町の子どもたちの学習の理解度や学習に対する意識、生活習慣等（総じて「学力」）を把握し、子どもたちへの教育指導の在り方や学習状況の改善等に役立てることを目的として、全国学力・学習状況調査の結果の分析を実施しております。

そこで、今年度も真鶴町教育委員会では、まなづる小学校・真鶴中学校とともに検証委員会を設置し、標記調査を中心に真鶴町の子どもたちの学習状況について分析をしました。その分析から見えてきた真鶴の子どもたちの良さと課題、課題を改善するための手立て等を保護者の皆様にお伝えいたします。

2025（令和7）年度全国学力・学習状況調査の分析から見た、 真鶴の子どもたちの特徴的な良さと課題について

調査実施日： 2025（令和7）年4月17日（木） ※中学校「理科」は4月15日（火）

調査対象学年： 小学校 6年生 ・ 中学校 3年生

今年度の調査でよくできたところ

小学校・中学校共通	
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none">・「いじめは、どんなことがあってもいけない」と考えています。・自分にはよいところがあると考えています。・人の役に立つ人間になりたいと考えています。・将来の夢や目標をもっている割合が高いです。・ICT機器を活用した学習が定着してきています。
小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none">・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていました。・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができていました。

算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分数の加法について、異分母の分数の計算をすることができていました。 ・ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができていました。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を解決するまでの道筋を構想し、根拠のある実験の方法を発想するなど、自分の考えをもつことができていました。 ・ 既習の知識を根拠に、現象が生じた理由を予想し、表現することができていました。
中学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができていました。 ・ 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができていました。 ・ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができていました。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげて説明することができていました。 ・ 「数と式」の領域は、式の意味を読み取り、成り立つ事例を見だし、数学的な表現を用いて説明することができていました。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「エネルギー」を柱とする領域では、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いています。 ・ 「地球」を柱とする領域では、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することができていました。

今年度の特徴的な課題

小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字を文の中で適切に使うこと。 ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。 ・ 指定された条件（使う言葉の限定、文字数など）に合わせて文章を書くこと。

算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題文を正しく読み、式に表すこと。 ・ 台形の意味や性質について理解すること。 ・ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ること。 ・ 基準となる数を見だし、数量の関係を捉えること。 ・ 数学的用語や表現についての知識の習得とその活用。 ・ 学習してから時間がたっていることや、近ごろ学習したことなど、積み重ねの少ない内容の定着度が低い。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「結果」や「問題に対するまとめ」を基に、他の条件での結果を予想して、表現すること。 ・ 実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現すること。
中学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文脈に即して漢字を正しく書くこと。 ・ 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 ・ 表記を確かめて、文章を整えること。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量及び数量の関係を文字を用いた式で表すこと。 ・ 式を変形したり意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。 ・ 多角形の外角の意味の理解。 ・ 変化の割合を基に x の増加量に対する y の増加量を求めること。 ・ 相対度数の意味の理解。 ・ 事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定すること。 ・ 身近な電化製品の回路において、抵抗に関する知識の概念の定着。 ・ 火災における適切な避難行動を問うことで、気体に関する知識の概念の定着。

☆子どもたちの「学ぶ力」を育てるための各学校での取組☆

分析結果を受け、各校で次のような取組を考え実施します。



小・中学校でつなげる共通の取組

○子どもたちが主体的に学ぶ授業にするため、校内研究の充実を図ります

※「校内研究」とは…学校の教職員が、各自の授業力の向上や、学校全体で行う教育活動の改善を目的に、相互で実践を提案・分析し合う研究会のことです。

（小学校での取組）

- ・児童が「読みの視点」を獲得し、「自分は読めている」「もっと読みたい」「読むことって楽しい」と思える授業づくりを通して、自ら「読みたい」と主体的に粘り強く取り組む児童の育成をめざした『授業研究』を行います。

（中学校での取組）

- ・個々の生徒への支援をクラス全体に広げることで、どの生徒にとっても分かりやすい授業を実現し、学びを豊かにしていくという「授業のユニバーサルデザイン」の考え方を大切にした授業改善に取り組みます。
- ・生徒が学習を見通し、自らの学びを調整したり、自己の変容をつかんだりすることができる振り返りを大切にし、学ぶことの意義や楽しさを感じ取り、自ら粘り強く学び続ける生徒の育成をめざした『授業研究』を行います。

○算数・数学等で「帯学習」に取り組めます＜New！＞

※「帯学習」とは…授業冒頭の5分程度の短い時間で、継続的に行われる活動です。短時間で継続的に行うことで、学習内容の定着やスキルアップを目指します。

（小学校での取組）

- ・その日に学習する内容に必要な既習事項の確認を行います。

（中学校での取組）

- ・授業開始時に既習事項の確認や百マス計算などを行うことで、単に復習にとどまらず学習に向かう姿勢づくりや集中力アップにつなげていきます。
- ・国語では、①学習漢字ノートに漢字を丁寧に書く（硬筆）活動、②教科書の本文をそのまま書き写す（視写）活動「五分間チャレンジ」、③素話（神話や説話など）を聞いて内容を18文字にまとめる活動の三つを日替わりで行い、週一回「漢字確認テスト」を行っています。（③は1，2年のみ）

○読書活動を推進します（家庭との協力）

（小学校での取組）

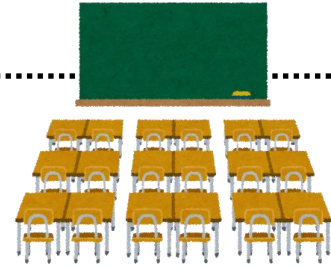
- ・読書タイムや読み聞かせを定期的に行い、学習内容と関連した本を教室に揃えるなど本との出会いを設定します。そのうえで、読書週間を設定したり、週末に家庭で本を読んでもくる「週末読書」を行ったりすることで、家庭での読書習慣の確立も見据えた取組を児童の発達段階に応じて行っています。
- ・学校図書館や町立図書館を計画的に利活用し、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図っていきます。

（中学校での取組）

- ・朝読書（MT）の時間をさらに充実させるため、生徒が自分の興味に合った本と出会えるような書籍の紹介など環境の整備を行います。
- ・家庭学習の計画書である「マナログ」を活用して、主体的な家庭学習を促すとともに、家庭でも読書をする時間が増えるように指導していきます。

各学校の独自の取組

まなづる小学校



○文章を粘り強く読む児童を育成します。

- ・国語では、長い文章でもあきらめずに最後まで読むことを指導します。
- ・算数では、問題文を読み、場面を理解できるように絵や図を用いることを指導します。

○既習事項（アイテム）を活用する力の向上を図ります。

- ・児童の既習事項の定着状況を確認し、既習事項との違いから考えることができる学習課題や、既習事項を活用し考えることができる学習課題を設定します。
- ・既習事項を活用して考えるための「視点」を明確にすることで、児童が「読んでみたい」「解いてみたい」「考えてみたい」という思いをもつ授業づくりを大切にします。
- ・自分の気持ちや考え、分かったことなどを文章で表現する活動を大切にします。

○楽しく基礎的な計算力を身につける取組を行います。

- ・まずは九九を確実に身につけられるよう、休み時間に様々な形で出題される九九の問題にチャレンジする「九九名人」「九九早唱え名人」を行います。

真鶴中学校

○「書く力」「文章を粘り強く読む力」を伸ばします。

- ・読書を推進するとともに、長い文章でもあきらめずに最後まで読むことを指導します。また、必要な情報を適切に取り上げ、文章と図表を結び付けて読むことができるように指導します。
- ・「書く」ことの習慣化を図るとともに、書いた文章の感想や意見を友達と伝え合ったり、個々に添削したりして、自分の文章の課題やよいところを見つけられるようにします。

○基礎的知識の確実な習得ができるようにします。

- ・数学では、授業で1～5問程度の計算問題を繰り返し扱い、基本的な問題を素早く正確に解けるように、振り返りと学びなおしを行います。また自学プリントを用意しその日の学習内容の定着をめざします。

○自ら英語を学ぼうとする生徒を育てます。

- ・生徒自身が到達すべき目標を自覚できるように見通しをもたせ、自らの成長を実感し、励みとできるような指導を計画的に行います。
- ・授業だけでなく、学校のあらゆる場面で英語を使ったり、英語に触れたりする機会を増やします。また、デジタル教科書などを利用し、家庭でも英語を聞いたり読んだりするよう促します。

真鶴町教育委員会の取組

○各学校の子どもたちの「学ぶ力」を育てるための取組を支援します

- ・支援員・専科教員などの人的支援や、ICT機器などの物的支援を今後も継続します。
(他市町に比べ、児童生徒の比率に対し、多くの支援員が児童・生徒の支援に入っています。)
- ・一人一台端末を利用した学習の充実のため、学習ソフトの導入などの支援を行います。
- ・職員に対する研修会を行ったり、研究会で助言をしたりするなど、学校の学力向上に向けた指導力の向上を支援します。

～子どもたちの「学ぶ力」を育てるために、

学校と家庭が協力して取り組みたいこと～

～特に大切にしてほしいこと！～

- ☆ 子どもたちと対話する時間を多くもちましょう。その日の出来事、学校で学んだこと、将来の夢について等、子どもたちの思いを受け止め、共に過ごす時間をつくり、対話をしてください。
- ☆ 家庭学習の習慣化に力を入れましょう。先生や保護者、子どもたちとよく相談をして、できることからステップアップして進めていきましょう。
※「家庭学習のてびき（小学校）」や「マナログ（中学校）」など、子どもたちが自分の力で家庭学習を行えることをめざした取組は継続します。
- ☆ 本に親しむ環境（時間・場）をつくりましょう。本の読み聞かせや、家族で共に読書をするなど、本を通してのコミュニケーション・共有体験を図ってください。
- 結果よりも、子どもたちが努力していること、頑張っていることの過程を大いに褒めましょう。
- 各家庭に配付した「みんなで守ろう 携帯・スマホ・ゲーム機等のきまり」を使って、ゲーム、スマートフォン等の使い方や使う時間などのルールについて、さらにスマートフォン等についてはフィルタリングの措置について、保護者と子どもとで相談しましょう。

※ ☆印は「重点項目」

◎さらに以下のことにも取り組んでいきましょう。

～心身共に健康的な生活習慣を身に付ける～

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、子どもたちの生活リズムを整えましょう。
- ・ 読書の時間（「読み聞かせ」を含む）をつくりましょう。
- ・ 体を動かして遊ぶ、スポーツに親しむことができるような機会をつくり、子どもたちに運動する楽しさを味わわせましょう。
- ・ あいさつを気持ちよくできるよう、大人から進んであいさつをしましょう。

～自尊感情（自分を大切に思う心）を高める～

- ・ 子どもの「その子らしさ」を認めていきましょう。
- ・ 子どもたち自身が「自分で頑張れること」について考える機会をつくりましょう。
- ・ 子どもとの共有体験（共に過ごす、活動する）の機会を多くもちましょう。（一緒にいる安心感が子どもの心を育みます）

～規範意識（きまりやマナーを守ろうとする心）を育てる～

- ・ きまりや約束を守ろうとする子どもの姿を認め、大いに褒めましょう。
- ・ 人と人のつながりが感じられる体験を増やし、子どもたちが感じたことを受け止めましょう。